

報道関係者各位

平成 21 年 6 月 30 日
株式会社コーチ・エイ**鈴木義幸、ニューヨーク日本商工会議所にて講演**
～グローバルリーダーに求められる要素とは～

コーチング・ファーム、株式会社コーチ・エイ（東京都千代田区、03-3237-8815）の取締役社長 鈴木義幸は、6 月 16 日、ニューヨーク日本商工会議所にて、日本人派遣駐在員を対象に「組織内コミュニケーションとコーチング」と題する講演を行いました。

<グローバルリーダーに必要な要素>

グローバル化が進む中で、現地職員との信頼関係の構築など、駐在先で予期せぬ障害に直面する方が多くいらっしゃいます。そのような数々の壁を乗り越え、日本人以外の人をもリードしていくにはどのような要素が必要なのでしょう。

鈴木は、自身がコーチするアメリカや中国に駐在する日本企業の役員のケースを紹介しながら、「グローバルリーダー」に求められる要素についてお話ししました。

1. 自分を知り、感情をコントロールし、戦略的に振る舞うこと。

異国で生じるストレスの多くは、その地の習慣が起因するものと思われがちです。しかし鈴木は、「それはむしろ、自分が元々持ち合わせている“反応のパターン”が表出している結果」であるとし、自分と違う文化背景をもつ人の管理指導には、相手を知る以上に“自分自身を知る”ことが大切であると説きました。自分がどのような場面で反応するかを知ることで感情的になることが回避でき、状況を俯瞰した対策を講じることができるようになることを、コーチングでの事例を交えて紹介しました。

2. 一人ひとりを見て、それぞれに対するデータベースをつくり対応すること。

とすると、私たちは異国における国民性を一様に捉えてしまう傾向があります。しかし、相手と接する際は、その「国民性」とらわれるのではなく、「目の前のその人自身」の性格に目を向けることの効果について述べました。個々の反応パターンに注目することは、「この国の人はなぜこうなんだ！」というストレスから開放されるきっかけとなります。

3. ビジョンやミッションを明確に持つこと。

鈴木が本講演でもっとも強調したのは、「グローバルリーダーとしての成功には、その地で何を成し遂げるか、というビジョンやミッションをもつこと」でした。これらが明確になることで、異文化を前に臆したり、周りの環境に翻弄されることがなくなること、そして、ビジョンやミッションに向かう姿勢そのものが、周りからの信頼を得る鍵になることを主張しました。

講演後、70 名近い参加者からは、「着任前の効果的なトレーニング」などに関して多数の質問があがり、活発な議論が行われました。

社名:	株式会社コーチ・エイ
本社所在地:	〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-1-30 イタリア文化会館ビル 10 階
URL:	http://www.coachA.com/
設立:	2001 年 10 月
代表者:	代表取締役会長 伊藤 守 / 取締役社長 鈴木 義幸
資本金:	1 億円

80 名のプロフェッショナルコーチが属し、グローバルにも活動を展開する日本最大規模のコーチング・ファーム。企業・組織におけるリーダーシップの開発を目的とするエグゼクティブコーチングを軸に、リーダー育成プログラムや人材開発、組織開発などのコンサルティング事業を行う。